

環境報告書 2015



原田工業株式会社

HARADA

企業ポリシー

1. 会社紹介 P-2
2. 経営理念 P-3
3. 原田グループ 環境方針 P-3
 - 1) 環境理念
 - 2) 環境基本方針
 - 3) 環境保全活動の運用

環境へのビジョン

4. 環境マネジメント P-4
 - 1) 組織体制
 - 2) ISO14001取得状況
5. 環境リスクアセスメント P-4
 - 1) 環境関連法規制の順守
 - 2) 地球環境に優しい製品づくり
6. 3Rによる取組み活動 P-5

環境貢献活動

7. 環境貢献活動 P-5
 - 1) 環境教育
 - 2) 活動実績の共有化
 - 3) 小冊子の携帯
 - 4) 環境月間・節電ビズ・クールビズの対応
8. 2014年度 本社環境貢献活動結果報告 P-6

環境データ

9. 投入量・排出量年度推移データ P-7
 - 1) 投入量
 - 2) 排出量

環境活動計画

10. 2015年度活動テーマ P-8
環境活動(本社)
11. 環境管理責任者メッセージ(今後の環境貢献活動取組みの姿勢について)

会社紹介 **HARADA**

通信の未来をデザインする

無数の電波が飛び交う世界で、私たちは風のように情報をキャッチし、メッセージを空に放ちます。ダイナミックな進化を続けるモバイルコミュニケーション。その先端にHARADAがいます。



本社エントラン

HARADAのアンテナメーカーとしての始まりは1957年。車載用ラジオ受信アンテナである「ロックアンテナ」の開発に成功し、自動車の純正部品として採用されたのを契機に、今や国内外の自動車メーカーのOEM供給で高いシェアを誇るトップクラスのアンテナメーカーへと発展しました。



大型電波暗室

2005年3月には旧社屋敷地内に大型電波暗室が完成しました。

私たちの名前が人々の目に直接ふれる機会はありません。世界を代表するアンテナメーカーであり続けること。それは言い換えれば、通信の未来を自らデザインし、かつ最高の品質でお客様へ提供することへの、終わりなき挑戦でもあるのです。

HARADA製品の一例



車載ラジオ用アンテナ



車載テレマテックス用アンテナ



アンテナハーネス



地上デジタルTV用
フィルムアンテナ



ETCアンテナ



シャークフィンアンテナ(衛星・ラジオ複合)

2. 経営理念

共創と革新

HARADAはベストを追求する
プロフェッショナル集団であり続けます。

3. 原田グループ 環境方針

(1)環境基本姿勢

環境問題はもはや国家レベルの問題ではなく、地球規模で解決を図るべき問題になっています。最近メディアを賑わせている京都議定書が2005年2月16日に締結に至ったことは、環境保全の取り組みが新たな局面を迎えたことを象徴する出来事であったと思います。

当社は自動車部品の製造・販売を事業活動の中心にしていますが、最先端技術を要する分野に関わるメーカーとして、快適な生活および健全で豊かな社会環境づくりに貢献していきます。

当社製品については環境負荷物質の抑制を図り、小型化による省資源などに配慮する設計により循環型社会へ貢献できるものを市場に提供していきます。

また、当社は国内を含む海外各地に生産拠点を有していますが、全工場ISO14001環境マネジメントシステムの認証取得をしており、生産活動においても地域環境の環境保全に大きく寄与しております。

(2)環境基本理念

原田工業株式会社は自動車用部品の製造、販売会社として自然環境との調和を企業経営の基本とし、企業活動を通じて健全で豊かな社会づくりに貢献します。

(3)環境基本方針

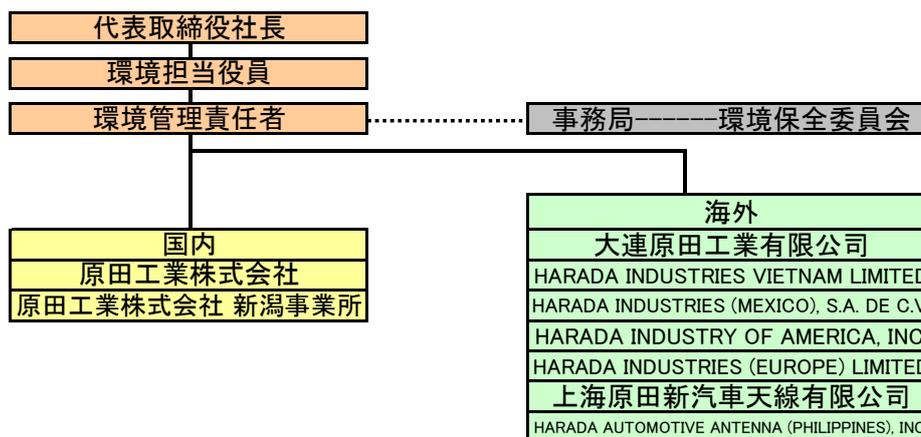
- (1) 再資源化、再利用、省資源、軽量化を行動指針とし、資源抑制、廃棄物削減、グリーン購入に努めます。
- (2) グループの連携を図り、地球環境保護のため全社共通の環境保全活動テーマとして更なる二酸化炭素排出量削減の定着化、及び生物多様性に関する共通認識の向上に努めます。
- (3) 環境負荷低減に貢献できる顧客・市場ニーズ製品の開発に努め、社会に提供しつづけます。
- (4) 環境関連法規制・取引先要求を確実に順守する為の組織的な対応に取り組むと共に汚染の防止に努め、有害化学物質の管理、使用の抑制、代替を積極的に進めます。
- (5) 環境保全の為、エコカーへの切替えを推進致します。
- (6) 環境方針に沿って目的・目標を定め、環境マネジメントシステムの運用を行なうとともに活動に対する定期的な見直しを行い、継続的改善を図ります。
- (7) 環境方針を全従業員に周知徹底し、環境保全に関する理解と意識を高めます。
- (8) 原田工業株式会社は環境方針を一般に公表します。

2015年4月1日

原田工業株式会社
取締役 上山 智

4. 環境マネジメント

1) 取組み体制



2) ISO14001 認証取得状況

当社は2000年4月、HARADA INDUSTRIES (EUROPE) LIMITEDにてISO14001認証を取得後、2002年4月までに下記の関連会社でISO14001の認証を取得しております。

関係会社	認証機関	認証取得
原田工業株式会社	JSA	2001年 8月
原田工業株式会社 新潟事業所	JQA	2001年 4月
大連原田工業有限公司	BV	2001年 4月
HARADA INDUSTRIES VIETNAM LIMITED	BV	2002年 4月
HARADA INDUSTRIES (MEXICO), S.A. DE C.V.	SAI GLOBAL	2002年 3月
HARADA INDUSTRY OF AMERICA, INC.	SAI GLOBAL	2001年 11月
HARADA INDUSTRIES (EUROPE) LIMITED	BSI	2000年 4月
上海原田新汽車天線有限公司	SGS	2005年 11月
HARADA AUTOMOTIVE ANTENNA (PHILIPPINES), INC.	SGS	2000年 10月

各社認証書（内容詳細は各社認証書フォルダにて確認することができます。）



原田工業株式会社 (本社) 原田工業株式会社 新潟事業所 大連原田工業有限公司 HARADA INDUSTRIES VIETNAM LIMITED HARADA INDUSTRIES (MEXICO), LIMITED HARADA INDUSTRIES (EUROPE) LIMITED HARADA INDUSTRY OF AMERICA, INC. 上海原田新汽車天線有限公司 HARADA AUTOMOTIVE ANTENNA (PHILIPPINES), INC.

5. 環境リスクアセスメント

1) 環境関連法規制の順守

日本や世界各国で、環境関連法規制が施行され、お客様の事業活動にも深く関わっております。原田グループも環境法規制を順守の上、グローバルな管理体制を構築し環境貢献活動を推進しています。

2) 地球環境に優しい製品づくり

海外を含む生産工場では、環境負荷物質の低減、有害物質の使用削減と廃絶につとめ、地球環境に優しい製品づくりを行っています。

・鉛フリーはんだへの切替推進



鉛フリーはんだリフローライン

・ハロゲンフリー化の推進

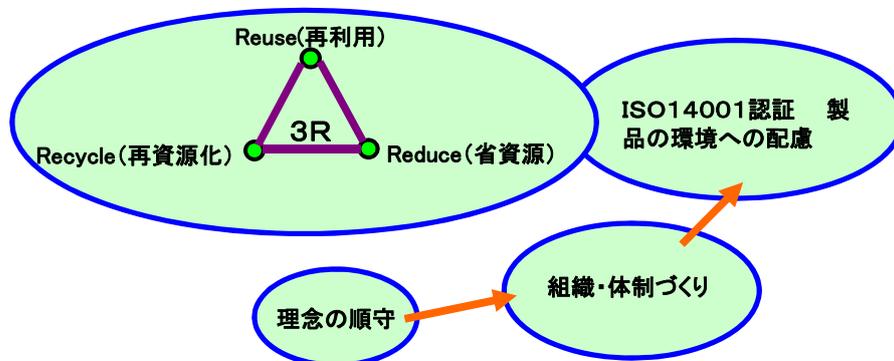


ハロゲンフリー同軸ケーブルシース押出

6. 3Rによる取組み活動・・・人と地球に喜ばれる企業を目指して

HARADAは、『地球環境のために何ができるか』を大きなテーマに、3Rに基づく環境負荷物質の低減や、ISO14001環境マネジメントシステムの認証取得など、循環型社会の実現に向けたさまざまなアプローチを行っています。

オフィスにおける省エネ・省資源・CO2削減活動



Recycle(再資源化)

- 1) 部品への材質表示による再資源化の推進
- 2) ゴミの分別廃棄によるリサイクルへの貢献
- 3) シュレッダー処理によるリサイクル率向上
- 4) パソコンリサイクルの実施

Reduce(削減)

- 1) プリンター複合機導入による紙使用量の削減
- 2) 電力消費量の削減
- 3) ゴミ廃棄量の削減
- 4) プリンター用トナー使用量の削減

Reuse(再利用)

- 1) オフィス事務用品の詰替えタイプへの切替
- 2) 輸送用不要梱包材料・プラスチックコンテナの再利用

7. 環境貢献活動

1) 環境教育

年度初期に役員、全社員、派遣社員に対し、社内ネットワークにて前年度の環境貢献活動結果報告、並びに新年度環境貢献取組み活動情報を開示しました。又、委託業者に対しては文書による情報開示を行ないました。定例開催の環境保全委員会議事録の部門内配信を行い、全員参加の環境保全活動に取り組んでいます。国内外のサプライヤーに対し拠点毎に環境負荷物質排除に対する要請を行っております。



国内工場における環境教育実施風景会
毎年度開催

2) 活動実績の共有化

京都議定書による国内外でのCO2(二酸化炭素)削減計画に対する環境貢献活動として、国内2社でのCO2排出量削減に取り組んでいます。

3) 名刺版環境ポケットカードの携帯

全社員が共通情報である環境方針、並びに部門毎の活動テーマを記載した、名刺サイズの環境ポケットカードを携帯し、日頃より環境貢献活動を意識した取組み活動を行っています。

4) 環境月間・ウォームビズ・サマールックキャンペーンの対応

- ・環境月間ポスター掲示
 - ・夏季: サマールックキャンペーン
 - ・冬季: ウォームビズ
- 等による活動の活性化、室温の適正化を維持し、CO2排出量の削減に貢献しています。



8. 2014年度 本社環境活動報告

本社での共通活動テーマである、CO2排出量削減に対する、部門別活動結果は以下の内容となります。1990年度CO2排出量に対し7%の削減を目標に、環境貢献活動に取り組んでおります。

部門名	14年度取組みテーマ	目標	結果(達成率)	評価	コメント
管理本部 内部監査室	月間エコロジー等を利用した啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> 環境貢献への意識を向上させる。 環境記事の確認や他社事例の知識向上。(90%) 社内11件以上、社外11件以上の環境貢献活動。(部門全体で2.5ケース以上) 	意識調査のアンケートを実施。 ・他社事例の知識向上 環境保全関連語句把握調査で90%回答 ・環境貢献活動実績 社内3.4件、社外3.6件 達成率(100%)		環境貢献活動の認識を更に深める活動となった。
総合企画部	社内報へ環境関連記事を掲載することによる従業員への環境教育及び啓発	社内報に環境関連記事を掲載し、従業員への環境教育を通して環境意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 社内報を5回発行。全号に環境関連記事を掲載。効果測定結果：環境意識が向上したとの回答が85%以上となった。 意識調査はアンケートを実施。環境記事の確認・他社事例の知識向上は、環境保全に関する語句の把握として調査し、90%以上の回答。 環境貢献活動は実施回答：社内3.4ケース 社外3.6ケース 達成率(100%)		社内の共通媒体で有る社内報に着眼し、会社全体に環境貢献活動の働き掛けが出来た活動となった。
OEM推進部	廃材分別によるリサイクル推進	14年度梱包材の年間購入量の削減・エアークッション4ロール以下(13年度実績=5ロール) ・段ボール3-541197D 200枚以下(13年度実績=240枚)	<ul style="list-style-type: none"> エアークッション4ロール以下(13年度実績=5ロール) 段ボール3-541197D 200枚以下(13年度実績=240枚) CO2削減量:1.3kg-CO2 達成率(95%)		本来、抑制が難しい梱包材の利用に対し、再利用を主とし、梱包材使用量の削減を図った活動となった。
製品開発部 事業管理室	離席時のPCディスプレイ 電源OFFによる消費電力・CO2排出量削減	活動推進(周知、徹底)による現状からの改善 現状推定値から30%以上の改善	<ul style="list-style-type: none"> 年間トータル56% (1.54kg-CO2)のCO2排出量を改善。 旧社屋廃棄物分別第4四半期定期確認結果：逸脱件数：0件 達成率(100%)		通常、習慣的に対応しているPC用ディスプレイの電源OFFを徹底して実行した結果、CO2排出量の削減が出来た活動となった。
事業統轄本部	主要得意先の環境活動を知る事で従業員への環境意識の啓発を図り今後の改善活動の視野を広げる	主要得意先の環境活動を調査し、年間4件以上配信する。 環境意識10%向上	得意先環境活動調査レポート配信：目標4件に対し4件発行。 アンケートによる環境意識向上：目標10%に対し23%の向上 達成率(100%)		他社に於ける活動内容を知る事で、自社での今後の活動に生かす為の活動となった。
業務課	物流ルート改善によるCO2排出の削減	九州向け製品輸送に関し、名古屋港利用から大阪港利用に変更し、CO2排出削減量 4,426.11kg-CO2 路上(トラック走行)距離短縮により、CO2削減を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 大阪港向出荷累計CO2削減量:3,540kg 維持活動のミルクラン輸送のCO2削減量 4月から3月までの累計CO2削減量:26,536kg-CO2 達成率(97%)		業務直結のテーマとして輸送に伴うCO2排出量の削減に取り組んだ活動となった。



・・・目標達成

9. 投入量・排出量年度推移データ

国内2社共通取組みテーマ

京都議定書による1990年CO2排出量に対する7%削減を目標とする。
1990年CO2排出量 0.1451万t-CO2を基準とする。

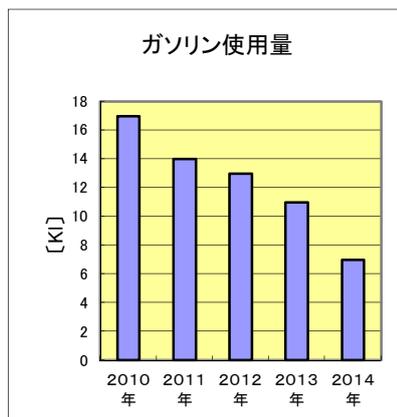
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	国内(本社・新潟事業所)トータル
CO2排出量 (万t-CO2)	0.1027	0.0701	0.0762	0.0725	0.0663	・月次投入量実績より算出評価
1990年度比	29.22%減	51.69%減	47.48%減	49.97%減	54.30%減	・7%以上の削減継続中

1) 投入量

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	取組み活動
電力使用量 (万KWh)	247	190	212	204	189	<ul style="list-style-type: none"> ・不要照明の消灯 ・自販機の照明OFF ・不稼働設備の電源OFF ・離席時のPC省電力モードへの切替え ・クールビズ、ウォームビズによる省エネ活
ガソリン使用量 (KI)	17	14	13	11	7	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ ・社有車利用ルールの順守 ・物流ルート見直しによる使用量削減
軽油使用量 (KI)	0.4	0.5	0.5	0.4	0.2	
灯油使用量 (KI)	7	8	7	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房機器の適正温度設定 (夏季:28°C、冬季:20°C) ・不稼働区域での使用中止
ガス使用量 (Km ³)	35	29	29	32	30	

2) 排出量

排水量(万t)	1.6	1.9	1.9	0.5	0.4	・漏水確認による早期発見
一般ごみ(t)	13	10	5	4	5	・分別廃棄基準の見直し



3Rの対応

HARADAは循環型社会構築に求められる3R※への対応として、廃棄物の発生抑制とともに接着材をできるだけ使わない構造設計で分解のしやすさを追求した製品開発を目指します。

※3R: Reduce(使用材料の削減)、Reuse(部品等の再利用)、Recycle(資源の回収利用)

環境配慮型製品の開発

下記2点を重点に環境開発を行います。特にReuse(再利用)に力を入れてまいります。

部品への材質刻印表示化(Recycleの推進)
分解性能向上設計の推進(Reuse・Recycleの推進)



デジタルTV用アンプケースの分解例

環境マネジメント

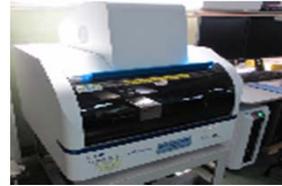
HARADAグループは環境方針に従い、環境貢献活動テーマの目標に取り上げ活動を行っております。日々の環境ISO14001の委員会活動に加え内部監査や外部の更新審査を受け、環境活動の継続的な見直し、改善を推進していきます。

環境負荷物質の検査体制

国内1工場、海外3工場に蛍光X線分析装置をいち早く導入しています。最新の各種法規制、お客様の閾値に対応したSOC検証を自社工場にて実施し、社内管理システムによる検査データ登録を行い、必要な時にデータを閲覧する事ができます。



エネルギー分散型蛍光X線分析装置
堀場製作所(株)製



蛍光X線分析装置
SII製 SEA6000VX
国内工場に新規導入

環境活動(本社)

部門 活動	管理本部 内部監査室	総合企画部	製品開発部 事業管理室	事業統轄本部	業務課	OEM推進部
テーマ	環境貢献活動の啓発及び実施	・ノーエレベーター・エスカレーター・レーダーによる電力の削減。 ・離席時のPC画面OFFによる電力の削減。	PCディスプレイ輝度最適化による電力・CO2排出量削減。	オフィスのエコ活動を実践し、低炭素社会を実現する。	物流ルート改善によるCO2排出の削減	廃材分別によるリサイクル推進
年度目標	年間を通して、日々の生活で環境に貢献する活動を行う。	・エレベーター・エスカレーターの使用率を抑制する。 ・離席時のPC画面OFFを周知徹底する。	推進活動フローによる現状からの改善。	離席時のモニター消灯によるCO2削減。 自席ゴミ分別違反件数の削減。	入替梱包先の適正化を図ることにより、トラック輸送を減らし、CO2削減を行う。	梱包材の購入量の削減

11. 環境推進責任者メッセージ(今後の環境貢献活動取組みの姿勢について)

当社は環境規制(ELV指令・RoHS指令・REACH規則)を順守すると共に、環境に配慮した設計及び製販一体の活動としてCO2排出量の削減に取り組んでおり、様々な角度から今後も継続的に環境貢献活動を実施して行きます。